

1月18日(土)の午後、「昔遊び交流会」が行われました。このイベントは、高校2年1学級の生徒が「探究」の時間において企画したのですが、昔遊びを通じて地域の子どもたちと高齢者の方、そして、本校生徒との世代間交流を活性化させようという探究活動に取り組みました。地域の子どもから高齢者の方まで、約30名のみなさんにご来校いただきました。

昔遊びの内容は、けん玉、羽子板、輪投げの3つ。最初にグループ分けを行い、それから順番に遊びに興じていきました。中にはとても熟達した方がおられ、それをお手本にしながら夢中になっている子どもたちの姿がありました。昔遊びを通じて地域の方々と繋がっていく、とても素敵な時間になりました。

2年1学級の生徒たち、想いが十分に叶いましたか？

(右は、子どもと大人が一緒になってけん玉に興じている様子)



「生きるために、学ぶ」

1月18日(土)と19日(日)の2日間、「大学入学共通テスト」が実施されました。本校生徒は80名近くが受験しました。国公立大学を目指すなど、共通テストを利用して大学を目指すなど、高みに挑もうとする生徒が年々増えてきたことは喜ばしいことです。

ところで、高校3年生の生徒は覚えていないかもしれませんが、高校1年次の4月、オリエンテーション期間の校長講話で次のようなことを話していました。

「ときどき生徒に聞かれることの一つに、『何のために勉強するのでしょうか』という質問があります。とてもいい質問ですよ。私は『それはね、生きるためだよ。だって、知恵や考えがないとより良い生活、自分らしい生き方ができないでしょ。様々な情報や環境を選ぶときに、勉強していなかったら困るでしょ。まして、人並み以上に学んだら、高みを目指して学んだら、得られなかった生き方や見えなかった景色も見えてくるんじゃないかなあ』と答えるようにしています。『生きるために、学ぶ』という想いが継続されたら、本当の幸せに辿り着けるのではないのでしょうか』と。

ひょっとしたらこの話を覚えていて大学受験に挑んだという生徒がいたとしたら、本当に嬉しい限りですね。

さて、1月7日(火)の3学期始業式で、今年2025年は、様々な節目を迎える一年であることを伝えました。1月17日、阪神・淡路大震災の発生から30年が経過しました。8月6日・9日には、被爆80年を迎えます。また、11月4日、修道学園は学園創始300周年を迎えます。

特に被爆80年という節目は、世界各地で起きている戦争や紛争に対して、停戦という力強いメッセージを寄せられるに違いありません。心から期待したいと思います。

想いを重ねるように、1月17日(金)の中国新聞・「ヤングスポット」に本校生徒(高校2年生・石井友菜さん)の文章が掲載されました。

友の言葉に背を押されて

日本被団協がノーベル平和賞を受賞した。受賞式を最初から見たのは初めてだった。

興味を持ったのは、友達が高校生平和大使に選ばれていることもあった。広島で生まれ育った私にとって「ノーモア・ヒバクシャ」という被団協が発信してきたフレーズについて考え、学ぶのは身近なことだった。

8月6日、広島の多くの学校は登校日となっている。毎年、平和についての授業を行っている。正直、暑い中、登校し授業を受けることを面倒だと思っていた時期もあった。しかし、ロシアによるウクライナ侵攻などが起こり、平和について考える機会が増えた。一気に自分ごとになったと感じる。

平和が大切なのは分かっている。でも行動できていない自分がいた。友達が平和についてノルウェーの生徒にスピーチしていた。テレビ越しに友達の声を聴きながら、私にできることは何かを考えた。「思いがあれば、誰でも発信を」。少しでもできることをしようとスピーチに背を押された。

石井さん、ありがとう。学ぶこと、学びを重ねるとはこういうことではないかと思います。漠然と生活していたのでは気持ちは揺さぶられないが、内的外的に触発されるのはその人の感性が問われることかもしれない。限られた一度の人生、生きる意味にこだわってみるからこそ学ぶことの意味や尊さに気づくのではないのでしょうか。

「生きるために、学ぶ」、噛みしめたい。